

---

# Fate OVA SUTORATOSU

卍 羽ばたけ翼神機 卍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

F a t e O V A S U T O R A T O S U

### 【Nコード】

N 2 2 8 2 Z

### 【作者名】

卍 羽ばたけ翼神機 卍

### 【あらすじ】

聖杯戦争それは各時代の英霊達が集い聖杯を巡りながら戦う物語である。

あなたは、この戦争の先に何を見るのか？

## 第一話 サーヴァント召喚

この世には聖杯と言うものが存在する、ある所では願いかな得てくれる物として崇め祭る場所もあればそれを求めて戦う人々もいる。神の力に等しい、聖杯がこの京都であるのを知っていただろうか。この京都で新たな聖杯を巡る戦の狼煙が上がるうとしていた。

### 第一話 サーヴァント召喚

「世界はつまらない」

俺はそういつも考えていた、人々がいつも平和で過ごし、それを眺めながら普通に学校を通うのは構わないがしかし、それでは俺明智兄哉「あけちけいや」は満足しない、そう俺は血に飢えていた。

そんな俺は高校2年生、実家が東北の岩手だがある理由でこっちの高校に転校して来た。

そんなこんなで日常を、過ごしてい時

「次のニュースです、京都博物館で以前保管されていた、紀元前以前に作らたと思われるお皿が盗難にあつた事件でこのお皿が金閣寺付近にて発見されました。これの発見を気に京都府では、警視庁に正式な調査を……………」

「今更、アンティークかよ」

と心の中で思った俺はつくづくこの世界の平凡さに嫌気がさしたが同時に俺はこの皿を見て何かを感じた。

「はぁー、あんどーナツ買って帰るか」

といろいろな事を考えながら、近所のパン屋によって帰って行った。

(ガラガラー)

「ただいまー」

「おー兄哉か、おかえり」

この人は、あけちげくに明智重国

俺の祖父だ、幼い頃か爺ちゃんと一緒に旅をしている俺と爺ちゃんは今回ある目的で一緒に暮らしている。

「兄哉、時子さん(母)から手紙が来とったぞ」

「あ、サンキュー。爺ちゃんあんどーナツ買って来たから爺ちゃんも食べるだろ？」

「さすが、ワシの孫だな、今茶を沸かし所だ」

(ズルズル)

「で、兄哉学校はどうだ？」

「普通かな」

俺はわかりやすい嘘をついた。

「で、爺ちゃんニュースに乗ってたあの皿何なんだ？」

と俺は、話をそらした。

「新聞に乗ってた、あの皿か、あれは聖杯じゃよ、それに、魔術教会から明智に家に招待状が届いたぞ」

と重国が兄哉に説明した。

「爺ちゃん今回の聖盃戦争の明智代表が俺何だよな」

と重国に解いた。

「ああ、この前の一族会議で決まったのじゃよ」

と重国は兄哉に険しい顔で言った。

「わかったよ爺ちゃん、俺は謹んで受けるよ。爺ちゃん、俺に最後の教えとしてサーヴントの召喚の術式を教えてください」

兄哉は無邪気な目で重国を見ているが、重国はその奥に別なまがまがしい物を兄哉から感じていた。

「良かる、師匠として、最後の稽古じゃ」

と兄哉に言い、家の地下道場に向かった。

地下に着くと、二人の前に、赤兜と槍が置かれた道場が一面に広がっている。

「さあ、兄哉これはワシからのプレゼントじゃ」

と重国が持つて来たクーラーボックスの中から血液パックを出した。

「爺ちゃんその血は、一族の優秀血を集めたものじゃ、これで術式を描くぞ、兄哉この紙に書いてある通りに術式を書くぞ」

と、兄哉に術式に付いて淡々と説明した。

「わかった、で爺ちゃんその血どうやって集めたんだ？」

と重国に聞く

「これは、ワシの一族の長兼魔術教会武術道場師範として一族の皆に頼んだじゃよ」

と満面の笑みを浮かべながら兄哉に言っで。

「爺ちゃん、それ職権乱用じゃ。まあ、いいや爺ちゃんこっちは書き終わってたぜ！！」

「ワシの方も大丈夫じゃ。」

二人ともこれから本番かと言う顔をしながら気合いを入れている。

「よし兄哉ワシの後に、詠唱を唱えよ」

と兄哉を見ながら言った。

「わかった、爺ちゃん、宜しく願います！！」

と二人とも気合いを入れたのを確認し詠唱を唱える。

(巡れ、巡れ、大きく巡れ、時の輪廻より来たりし強者よ、その魂を今一度個々に解き放たん。主たる者の前に姿を見せたまわん!!)

と詠唱を唱え終わると魔法陣が光、兄哉と重国の前に赤い鎧を纏い、兄哉と同じ位の槍を背中に背負っている男が姿を表した。

「今度の戦場か。貴公等に答、我がマスターはどちらだ？」  
と背の高い男が二人に聞いて来た。

「それは、俺だ。こちらでも質問するぞ、その装備から、見てランサーで間違いは無いな？」

と兄哉がランサーに聞く。

「ああ、私はいかにもランサーだ。君の名を覚えていただけぬか、我が主よ」

とランサーも兄哉に答。

「その前にランサー、人の名前を聞くならそちらからでは？あなたの神明は？」

と質問を質問で返す兄哉。

「これは済まない、我が主よ。我が名は真田源治郎幸村、この六文マスターに誓い、主の為槍を振るわん」

これが俺と幸村の初めての出会いだった。

続く。

?この話しはフィクションである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2282z/>

---

Fate OVA SUTORATOSU

2011年12月8日03時06分発行